









# 近現代美術



## 【INDEX】

梅津 元	芸術学	近代美術館 企画展担当
大浦 周	近現代美術史	近代美術館 企画展担当
大越 久子	近現代美術	近代美術館 教育・広報担当
菊地 真央	近現代美術	近代美術館 常設展・収蔵品担当
五味 良子	近現代美術	近代美術館 常設展・収蔵品担当
佐伯 綾希	近現代美術	近代美術館 企画展担当
佐原 しおり	近現代美術	近代美術館 常設展・収蔵品担当
嶋原 悠	近現代美術	近代美術館 企画展担当
平野 到	近現代美術	近代美術館 企画展、教育・広報、常設展・収蔵品担当
吉岡 知子	美術史	文化資源課 博物館・美術館担当

梅津 元	芸術学	企画展の統括を担当しています。企画展としては、「1970年—物質と知覚」、「ドナルド・ジャッド 1960-1991」、「プラスチックの時代」、「生誕100年記念・瑛九展」、「版画の景色」などを担当しました。「キュレーターの視点」、「特別展示:瑛九の部屋」など、展示手法を開拓するコレクション関連プログラムや、美術館講座「映像の可能性」なども手掛けました。専門は「ミニマル・アート」ですが、アカデミックな研究よりも、表現の現場に足を運ぶことを大事にしています。写真、映像、音楽などの分野にも関心があるので、上映会なども企画していきたいと思っています。
うめづ げん		
	1960～70年代の美術、写真・映像	
大浦 周	近現代美術史	主に現代美術の展覧会を企画しています。今年度担当する「New Photographic Objects」展では、写真と映像という表現形態を選んだ同世代のアーティストたちの意欲的な表現を紹介します。豊田市美術館・国立国際美術館との三館で開催する「ボイス+パレルモ」展の準備も進めています。
おおうら いたる		
	表現主義、20世紀のドイツ美術	
大越 久子	近現代美術	埼玉県立近代美術館の開館当初から学芸員を務め現在に至ります。「ニッポンの風刺」、「呼吸する風景」、「椅子のデザイン」、「ひとすじの道—高橋久雄」、「小村雪岱とその時代」など、担当した企画展は近代から現代まで多ジャンルにわたり、美術に軸足を置いた多様な表現行為に関心をもっています。現在は教育・広報担当チームに所属し、企画展や美術館広報に携わっています。著書に『小村雪岱—物語る意匠—』。
おおこし ひさこ		
	小村雪岱と同時代の文化	近代美術館では、教員やボランティアなど学芸員以外のスタッフとの協働も多いため、さまざまな人が気兼ねなく活動できる環境を保つことができるように心がけています。

菊地 真央	近現代美術	<p>近代美術館に勤めて3年目になります。常設展・収蔵品担当として、コレクション展の実施や、作品貸出、などの業務を担当しています。また、日本画・工芸・書・資料の管理の統括を行っています。コレクションのうち、特に日本画を展示する機会を積極的に増やしていきたいと思います。</p>
きくち まお		
	日本の近代美術	
五味 良子	近現代美術史	<p>現在は収蔵品担当に在籍しています。企画展ではこれまでにキネティック・アート(2015)、日本におけるキュビズム(2016)、版画の景色(2017)、浦沢直樹展(2018)などに携わりました。</p>
ごみ りょうこ		
	視覚文化交流史	
佐伯 綾希	近現代美術	<p>2020年度から近代美術館で勤務することになりました。企画展担当として、展覧会の企画・実施に携わる予定です。未来派のポッチョーニという画家／彫刻家を中心に、19世紀後半から20世紀初めのイタリアにおける前衛芸術について研究してきました。イラストや装幀、雑誌文化、デザインといった分野にも関心があります。これまでユニークな展示を楽しみにしてきた美術館の一員になることができ、大変嬉しく思っています。収蔵品やゆかりの美術家について知識を深め、埼玉ならではの企画に繋げていければと思います。</p>
さえき あやき		
	イタリアの近代美術	

佐原 しおり	近現代美術	2019年度より近代美術館学芸員。現在は常設展・収蔵品担当に所属し、MOMASコレクションの企画実施や収蔵作品の管理を行っています。主な業務に、収蔵作品の収集、貸出、版画・写真作品の統括などがあります。昨年度は「アーティスト・プロジェクト#2.04 トモシ 有酸素ナンパ」を企画しました。今年度は「New Photographic Objects」展の副担当をしています。
さはら しおり		
	日本近現代美術	
嶋原 悠	近現代美術	2015年より近代美術館に勤務し、常設展・収蔵品担当を経て、2019年度より企画展担当の仕事をしています。昨年度は「May I Start? 計良宏文の越境するヘアメイク」、「森田恒友展」に副担当として携わりました。また、MOMASコレクションでは、これまで、江森天寿、小茂田青樹、草創期の春陽会など埼玉ゆかりの収蔵作家の活動を紹介する展示を担当しました。専門である日本の近代美術を軸に、広い視野でさまざまな美術の動向を紹介することを目指しています。
しぎはら はるか		
	日本の近代美術	

平野 到	近現代美術	現在は常設展・収蔵品管理を担当しながら、学芸業務を総括する仕事をしています。20世紀の国内外の先鋭的な美術動向、芸術運動に関心があり、「1970年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001)、「長澤英俊展—オーロラの向かう所」(2009)、「浮遊するデザイン—倉俣史朗とともに」(2013)、「日本におけるキュビズム」(2016-17)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「インポッシブル・アーキテクチャー」(2019)などの企画展を担当しました。また、当館を代表する収蔵作家のピカソを、マチスとの関係から探る展覧会「ピカソとマチス—1930～40年代の版画を中心に」(2003)なども企画しました。新たなものの見方をもたらし、飼いならされた思考に風穴を開けてくれるような作品との出会いを、何よりも大切にしたいと思っています。
ひらの いたる		
	日本の戦後美術 近現代のドイツ美術	
吉岡 知子	近現代美術	2008年より埼玉県立近代美術館に勤務し、今年度より埼玉県文化資源課博物館・美術館担当に異動しました。
よしおか ともこ		
	日本近代美術	<p>主な関心領域は日本近代美術で、これまでに美術館で企画展「private, private—わたしをひらくコレクション」(2015年、「瑛九と須田剋太」のセクションを担当)、「原田直次郎展—西洋画は益々奨励すべし」(2016年)、「駒井哲郎 夢の散策者」(2017年)、「森田恒友展」(2020年)などを担当しました。</p> <p>今年度は新しい環境の中で、博物館・美術館を外側から見ることによって、何ができるのかを考えていきたいと思っています。また、地域の美術家を中心に、作品や資料に眼を向け、忘れられてしまうかもしれない美術家の痕跡を掘り上げることができればと思っています。</p>